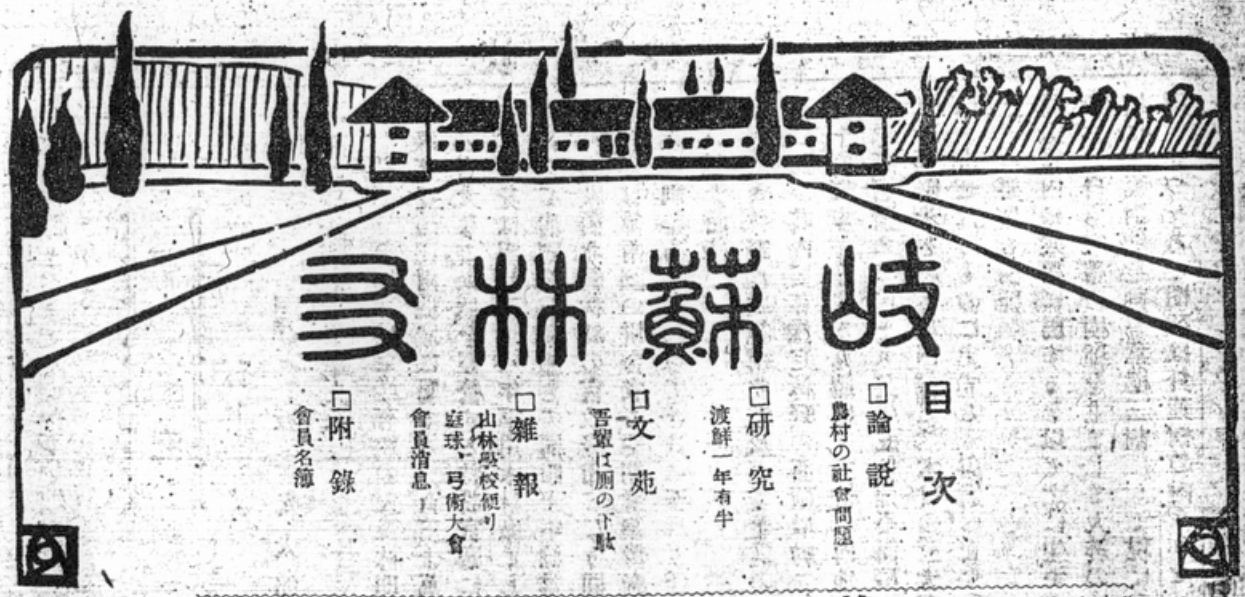

岐蘇林業

目次

□論說
農村の社會問題

□研究
渡鮮一年有半

□文苑
吾望は厠の下駄

□雜報
山林學校視察
庭球、弓術大會
會員消息

□附錄
會員名簿

大正六年十二月廿五日　第九拾八號　毎月廿五日發行　定期郵便物認可　明治四十三年十月六日第三種郵便物認可

定價　三錢

論說

切實に感ずる農村の社會問題

宇志生

標題は馬鹿に大きいが、內容は簡單なる林野の統一問題である。部落林野の町村統一――を奬勵するには、自分から初め諸博士の說、主務省官吏の說を受賣して、夫が如何なる處迄に影響すべきか、將又、如何なる推移をなすべきかを熟慮せず。知悉せずして滔々說述した、社會政策上の緊要問題に初めて、逢着したのである。夫れは時と處と然して人とによつて、必ずしも一樣の形に於て、現はるべきものではなからうが十中八九迄は、やがて此の型の中に入り得るものであると信ずる。其第一は統一せられたる部落民及村民の受る利益である。縣下東蒲原郡東川村は、大正三年に於て各部落の所有する五千五百町歩の林野及其他の財產を、無償無條件の下に全部統一を斷行したのである。當時村民の一部は、舊慣を破るものとして、憤懣の聲を放つたものもあるけれども、其後四年縣は吏員を派して之が施業案の編成をなして、經營の歩を定めて以來、何等の不平を其處に懷く者はなかつた。然るに客年以來、木炭價の向上に伴ひ、所在林野の濫伐、極点に達すると共に、森林の持主は日に月に、原材價を引き上げ、遂には一竈の原材一圓二十錢（木炭十五貫內外）に達するに至つた。たとひ彼等の收入增大せりと雖も、須要なる原料は急減し加ふるに、其の價格倍加しては、餘程練熟せる腕前の者でなければ、やり得ない迄になり、茲に手腕の陶汰が行はれ、弱きものは、業を轉せずには居られない者を頻出するに至つた。然るに東川村は如何、秩序ある伐採は、其の量を急減することなく且又、一二年間の伸縮は面種が大なる丈に、幾干でも之をなし得る。更に又、統一は、村民幸福助長の目的である上からして原料價は幾部騰貴せしめたにすぎない。茲に於てか、產出數量は增大し、收得は激增する。茲に統一謳歌の時代が出現したのである。斯かる例は統一したる町村の何れにも出現すべきものであるが、町村當事者が特に地元の關係に留意し、克く公平の措置を取るにあらずんば、得て怨嗟の聲を聞くに至るものである。指導者は、常に數年又は數十年の後を思はなければならない。何れの町村と雖も、林野のある處必ずや、部落有林野を存したのであるが、其の取りたる手段の如何によつて、今や東川村の如く、村民の幸福を增進するものもあれば、同郡內の某村に於て見るが如き、部落民の離落を見、一技も自由に得る能はずして、益々衰滅に傾かんとするものもある。現在に捉はれて現在の利の前に沒入せるもの多き時代は、たとひ少しく强壓を加ふる事あ

るも、彼等の將來のために、幸福なる施設は之を躊躇すべきでない事を、切實に感せしむるのである。

研究

渡鮮一年有半

（承前）

圖境にて　坂本光太郎

營林廠の事業

一、沿革　營林廠は東洋有數の大森林即ち鴨綠江豆滿江兩流域に屬する二百三十萬町歩の廣大なる森林を經營する特設官廳にして其前身は明治三十八年軍用木材廠として生れ以て清國側を分離して同四十年統監府營林廠及西北營林廠の官政發布となり同四十三年日韓兩國の併合成るや朝鮮總督府營林廠官制發布せられ以て今日に至れり。

二、所管面積　同廠所管林野は咸鏡南北道及平安北道の三道に跨り其内要存豫定林野の面積は約二百二十萬町歩に達する見込にして恰も内地國有林野面積の半に上り其の成林地全面積は二百萬町歩を超へ秋田、青森、木曾の三大森林を併せたるものに比するも尚遙に大なり

三、主要なる樹種　同廠管内は寒帶に屬するを以て之に生ずる樹木は自ら寒帶の樹種を主として大躰の林相は針葉樹約七割濶葉樹三割にして現に利用されつゝある樹種は針葉樹の内テウセンマツ（紅松）タウヒ、タウシラベ、タウセンヤマナラシ、ドロノキ類等種々あるもテウセンヤマナラシを燐寸軸木用材として伐採するヨノヲレカンバを車軸用材として伐採する外未だ盛に利用せらるゝの時機に達せず

四、占領面積及其の歩合　樹種の各占領面積及管内に於ける主要なる樹種の各占領面積及歩合を表示すれば左の如くなり

樹種別	鴨綠江流域面積	豆滿江流域面積	計面積
針葉樹 紅松	三三万町	一万町	三三万町
針葉樹 杉松	六五	一〇	七五
針葉樹 落葉松	二九	二〇	四九
針葉樹計	二六	三	一四七
濶葉樹	四七	一〇	五七
合計	一六三	四一	二〇四

即ち針濶の占領歩合は兩流域とも針葉樹多くして其三分の二以上を占め特に豆滿江流域に於ては針葉樹最も多くして濶葉樹は僅かに二割四分を占むるに過ぎず又鴨綠江流域の針葉樹は杉松即ちタウヒモミ屬の占領面積最も多くして針葉樹全占領面積の半以上を占め豆滿江流域の針葉樹は之に反して落葉松三分の二を占め之に次ぐは杉松にして紅松は極めて少なし。

五、蓄積及其の歩合　最近の調査による林木の蓄積及歩合を示せば左の如し

樹種別	鴨綠江流域總材積	豆滿江流域總材積	計總材積
	萬尺メ	萬尺メ	萬尺メ
針葉樹 紅松	二三、九四九	一四七	二四、〇九六
針葉樹 杉松	四二、五七〇	一〇、六〇五	五三、一七五
針葉樹 落葉松	二三、一七三	一九、三四七	四一、五一〇
針葉樹計	八八、六九一	三〇、〇九九	二一八、七九一
濶葉樹	三、五二八	四、七一九	一七、四一七
合計	一〇一、二一〇	三四、八一八	一三六、〇二八

即ち總材積は無慮十三億六千萬尺締の巨量に上るを以て假に輪伐期を百二十年となすときは毎年一千百三十三萬尺締を伐採するを得べく將來製糸原料として最有望なる杉松は鴨綠江流域に於ける蓄積のみにても控目の計算にて無慮四億二千六百萬尺締に達するを以つて假に百二十年を以て輪伐するものとせば年伐材積約三百五十萬尺締の巨量なりと知るべく又鴨綠、豆滿江流域の針葉樹蓄積は約十二億萬尺締なるを以て假に百二十年を以て輪伐するものとせば永久毎年一千万尺締を伐採し得ると知るべし。

六、區分調査及施業案調査　營林廠所管林野中には國有として存置の要なきものあり又私有地と境界不明のものあるを以て同廠にては要存豫定林野の區分調査及是等要存豫定林野の更新の確實を期し利用を永遠に保續し併せて國土の保安危害の防止水源の涵養等間接の効用を全からしむる目的を以て簡易なる施業案編成調査の必要を認め大正元年度より調査を開始し十一年度迄に終了する豫定なり。

七、造林

樹木の蓄積如何に巨量なるも單に伐採するのみにて造林に注意せざる時は遂には荒廢に趣くこと必然なるを以て同廠に於ては夙に第二次の林相に注意し主として天然造林法によりて更新を期することゝし又舊韓國政府時代の伐採跡地若くは從來の未立木地等にして天然力のみにては造林の目的を遂げ難き地域に對しては特に人工造林を行ふの方針を執りつゝあり然るに同廠所管地の如く交通運搬等に不便なる地域にありては成るべく造林方法の簡易を期し且造林經營費の最節減を旨とするの要あるを以て一面には大正元年度より着手せる施業案調査に於て各地區に對する適切なる更新方法の調査研究に努め一面には試驗造林試驗苗圃を行ひて適當樹種の選擇に從事し之と同時に適當樹種の養苗法造林法及生長量等の調査研究に努めつゝあり。

八、伐木及造材　伐木事業は通例直營伐木と個人伐木とに別ち直營伐木は營林廠直接の事業（一部の請負を含む）として伐木搬出の經費を賠償して之を引き取り或は立木代を徴集して私有に歸せしむる方法を謂ふ伐木及造材事業は主として九月より十一月の間に之を行ふも若干は臨時其他の時期に於ても實行することあり鴨綠河流域に於ける伐木造材は大正三年度に於て一時緊縮主義を執り爾來林野調査の進捗に伴ひ年次增加し大正三年度には三十萬尺締を超ゆるに至りたるも四年度には歐洲戰亂の影響を受け運搬資金欠乏せを以て已むを得ず直營伐木を縮少せるのみならず民間伐木業者も一般に伐木を手控せしめ遂に十九万尺締に減少せるも大正五年度に於ては軍用材の新用途も開かれたるにより依然三十七萬八千尺締に增加し又豆滿河流域に於ては會寧兵營建築のため明治四十年より四十二年度に至る三箇年に於いて約十六万尺締を伐採せし以來直營伐木は暫時停止の狀態にありしも大正三年春多大の燒損木を生じたるを機とし主として咸鏡南北道方面の需要に充つるため再び直營伐木を開始するに至れり。

九、運材及流筏　運材の開始は十二月にして積雪及結氷を利用し手曳木馬修羅の方法により又は輕鐵によりて土場運材（場所の關係に依りては鐵砲出し又は管流によりて編筏土場に木材を集むることあり）を爲し五月頃解氷の時期に至れば編筏を行ひて流筏に移る流筏の開始は通例五月にして其の最盛期は六月より九月に至る四ヶ月間とす流筏距離は鴨綠江に在りては通例百里乃至百五十里なり而して流筏の閉止期は通例十月とす

一〇、貯木　鴨綠江に在りては北下洞（新義州の北約一里なる中の島に在り）及新義州製材所構内に貯木所を設けて之に流下せる原木を貯藏し又豆滿江に在りては以前は會寧に貯木所を置きしも大正三年度よりは下流士里に派出所を置き同所に着筏せしめ夫れより輕鐵に依りて西水羅に運搬し同地に貯藏せり然るに清會線開通せば再び會寧に貯材するに至るべし

一一、製材　同廠は一面原木を販賣すると共に一面直營の製材事業を行ひ以て諸官廳及一般需要者の便益を計りつゝ有り尚從來は建築材の普通製材種類三十七種にして之を品質樹種材種別に區別する時は無慮一千五百二十種の多きに上りたる爲め徒に生産費を增加し需要供給兩者の不利少なからざりしを以て大正五年二月其の種類を九百九十種に減じ次て七百三十五種となし以て相互の便益を計りつゝあり。

一二、販賣方法　販賣の方法に就ては大正四年十月以來の小賣制度を改め附錄（省略）木材價格低減に關する内規を定め主として大口取引制によることゝせしに大正四年十二月に至り大阪清水榮次郎（大正五年三月十五日清水榮次郎及三井物産株式會社京城支店との連帶契約に改む）及新義州木材株式會社は營林廠と大口取引の契約を締結し定價の二割減にて購入することゝなりしを以て小口の買受けを爲さんとする者は直接當廠に注文するよりも前記大口契約者に注文する方價格低廉にして手續又簡便なるの利あり尚木材價格低廉に關する内規に基き大口取引きの契約を爲さむとするものは何人にても同廠に申

出らるべし同廠は新義州本廠又は咸鏡北道慶興郡西水羅營林廠出張所に於て販賣事務を處理し公共團躰其他確實なる法人に對しては無擔保にて個人に對しては規定の有價證劵を提供し又は確實なる保証人を立てる者に限り一ヶ年以内代金の延納を許可する定めなり又龍山其他各地渡の木材價格は新義州及西水羅渡の價格に運賃を加算したるものとす。

滊車運賃は營林廠商標あるものに對しては朝鮮内は鐵道局と協定したる特約割引賃金を適用し低廉に運送し得又滊船賃も隨時各取扱店と特約し供給の便利を圖りつゝあり

收支比較表（○印は收入△印は支出）

明治四十年	○三、三八、〇〇〇〇	
同　四十一年	○二四、二四、〇〇〇〇	△二四、〇〇〇〇
同　四十二年	○二五、二一、〇〇〇〇	△三五、〇〇〇〇
同　四十三年	○二、六〇、〇〇〇〇	△二、三一、〇〇〇〇
同　四十四年	○二、八、〇〇〇〇	△二、三六、〇〇〇〇
大正　元年	○二、八、〇〇〇〇	△二、三六、〇〇〇〇
同　二年	○九、〇〇〇〇	△七四、〇〇〇〇
仝　三年	○二四、〇〇〇〇	△六〇、〇〇〇〇
仝　四年	○六〇、〇〇〇〇	△二一、〇〇〇〇
仝　五年	○二五、〇〇〇〇	△二五、〇〇〇〇

受入材及販賣坪（○は販賣△は受入）

明治四十年	△一、四〇、〇〇〇〇	○一、〇〇〇〇
仝　四十一年	△二、六、〇〇〇〇	○二、六、〇〇〇〇
仝　四十二年	△二、七、〇〇〇〇	○二、三、〇〇〇〇
仝　四十三年	△二、六、〇〇〇〇	○三、〇〇〇〇
仝　四十四年	△二、六、〇〇〇〇	○二、五、〇〇〇〇
大正　元年	△三、〇〇〇〇	○元、〇〇〇〇
仝　二年	△二、六、〇〇〇〇	○元、〇〇〇〇
仝　三年	△二、六、〇〇〇〇	○三、〇〇〇〇
仝　四年	△二、三、〇〇〇〇	○元、〇〇〇〇
仝　五年	△二、六、〇〇〇〇	○四、〇〇〇〇

材力と年伐材積

明治四十年度	二五、〇〇〇〇
仝四十一年度	二七、〇〇〇〇
仝四十二年度	二四、〇〇〇〇
仝四十三年度	一九、〇〇〇〇
仝四十四年度	二一、〇〇〇〇
大正元年度	二五、〇〇〇〇
仝　二年度	二一、〇〇〇〇
仝　三年度	二五、〇〇〇〇
仝　四年度	二四、〇〇〇〇
仝　五年度	四二、〇〇〇〇

損益比較表（○印は益△印は損）

明治四十年	△一、〇〇〇〇	
仝四十一年	○八、〇〇〇〇	
仝四十二年	○七、五〇〇〇	
仝四十三年	○八、五〇〇〇	
仝四十四年	○七、五〇〇〇	
大正　元年	○三、〇〇〇〇	
仝　二年	○一六、〇〇〇〇	
仝　三年	○九、五〇〇〇	
仝　四年	○一七、五〇〇〇	
仝　五年	○二四、〇〇〇〇	

「附」廢物利用

近く新義州に當營林廠管内の木材を原料として東洋有數の製紙會社が新設されることゝなつた營林廠管内の森林は前述の如く其の七割迄が針葉樹で然も約十二億萬尺〆もあるのであるから幾等之を伐採したからと云つて心配するに及ばぬ殊に又右の針葉樹を百二十年の輪伐と云ふ事にすると毎年百二十分の一即ち一千萬尺締宛伐採が出來る譯であるが先づその四割の四百萬尺締は其儘山に打捨てゝ置て其の殘余の六百萬尺〆を利用する事として其の内二百四十萬尺〆を普通の用材とし他の三百六十萬尺〆をパルプの原料に提供する見込みださうであるがパルプの原料にする木材は普通の用材としては使れぬ樣な廢物で或は曲つたり或は虫がついたりした者ばかりであるから之こそ眞個の廢物利用である今度の製紙會社は公稱資本金五百萬圓といふ事になつてゐる

が將來は其の事業を擴張すると共に資本金も二三千萬圓位に增加しやうと云ふ話もあるやうでおるが此の廢物利用に依つて毎年六千萬圓のパルプを生産し得らるゝさうであるが元來其原料は廢物の木材でそれが無盡藏に有ると言つても好い位有るのだから此の事業は確かに成功するであらう。紙價暴騰の時に當て斯る事業の起るは如何にも現代に相應しい好個の大事業である。（未完）

文苑

吾輩は便所の下駄（承前）

白菊

こんな話も珍しくなくなつた頃はもうフエスは眞黑になつた。日々幾人かの役を務めるのだからもう先の樣に人をのせるにもウン〳〵呻らなくなつた、かうなつて見ると人といふものも、にくゝなくなつて反つて懷しい樣な氣がして來た。鶯が朝から鳴いて、そよ〳〵と吹く風も温く且つよい香をのせてくる頃、人の來ない時は吾輩等は一列にチヤンと列んで、あのぼか〳〵上る陽炎を見つゝ、しらず〳〵夢路を辿つてゐたそれでも人に上られると吾輩の元ゐた店先の辻待人力車が昨夜の疲れか浮世の疲れかポチを側にして、眠つてゐる時「オイ車屋」といはれて車を引き出すより早く、吾輩の体は目覺めるとすぐ御用を忠實に務める、それが終ると鳥の歌や花の香に酔うて、またスヤ〳〵はおきまりである、丁度吾輩の寢てゐる生活は南洋とか云ふ所の土人のそれの樣だ、芳香が强くなり蝶蜂の舞ふのも繁くなつて之から先はどんな樂しい日が來るであらうと思つてぼつと浮んで而も西へ〳〵と動く朧月を眺めてうと〳〵した。自分に還つた頃は五月雨とかいふあの空中では柳の糸の樣にそして土につくやポツ〳〵と切れ〳〵になる濕つたものが花を泥に委してあの香しい芳香を奪ひ鳥を飛ばせず鳴かせず蜂や蝶の遊びを止めて昨日に變る浮世の無常を敎へてゐた。明日は止むかと思ひの外、昨日にまさる濕氣、非常に寢心地が惡いのみか目覺めると吾輩の住み家を我物顔に飛んであるく蠅とかいふものが出て來て實に癪だ、癪だから眠り付けない、たとひ寢たにせよあゝよい夢だ今少し見たいと願ふやうな時に限つて吾輩の背中を無斷拜借に及んで夢を破る、實に怪しからん奴だ、人が寢てゐる時無理に起すと「なんだ五月蠅い」と云ふそうだ、僕等より高等だとか萬物の靈長だとか眞僞は知らないが其人でも手にあましてゐるといふ話だ、して見るといくら癪だからと云つて吾輩には遺憾ながら如何ともすべからずである、只、蠅め此次の代には復讐して呉れると悲憤慷慨する許だ。餘り長寢をしたから軒端より飛びおりる雨垂を見てゐると同じ土の土にどれも〳〵飛びおりる、無益な事をする奴だなと面に色ます木立の方に目を轉じた、其木どもゝ矢張吾輩から見るとき印の仲間だ、まづ第一に吾輩がいやに思ひ花や鳥や蜂蝶の悲しみ嘆く五月雨を歡迎してゐる、畏くも人間樣までが「今日も亦降りでいやに陰氣ですなあ」「早く止んで呉れにやロが鉤にかゝらあ」とかこちなさる、併し世の中は變なもので一方で嫌やといつて肘鐵砲を食はせるものを何より結構と渴仰する、こんな事があるから世の中が立ち行くのかも知らん、人間樣を第一に次には吾輩のいやな五月雨が止んでホッとした、不圖無聊に苦しむ眼を雨垂の飛び下りた所に注ぐと驚くべしあの黑い樣な土を一寸程堀りあけてある、昔から點滴石を穿つと云ふがまんざら僞でもない、吾輩も人間樣の役目を勤めるからには人間の言葉を知つておく必要があると急に思ひついたが熱心は恐ろしいもので長くも立たぬ内に便所で使用する一般の語はどうやら理解される樣になつた。かうなると之に對する興味が津々として泉の湧くが如くに湧いて來た、斯樣な新しい心理狀態で以前の事を振りかへると無益な事をする奴だと笑つてやつた雨垂が非常な恩人の樣に思へて來た、同時にあの樣に熱心に土を堀つてゐるのを馬鹿にして申譯がなかつたといふ心も起きた、過去の自分は全く愚人であつたと深く反省し物事の表裏を比較考量するになつたのは此時からである、して見るとあの言語を巧に操つてゐる

人間はたしかに萬物の靈長だと思ふ、此点から類推すると此靈長のお勤めをする吾輩はどうやら靈のもぬけらしい、こんな事を恰も綠滴る夏の日に蛙が四這して黑光りのする目を白黑させ頸を伸ばしたり縮めたりする樣なスタイルで考へ込んでゐると今しがた吾輩と御用を勤めたあの色の沈んだ鼻緒のゆるんだ老人が蠅に背中を這ひ廻られてモヂ〳〵しながら「何を考へ込んでゐるんだ詰らん事を考へてゐるよりはこの工合のよい日ざしをウントコサ受けて晝寢でもしろわるい事は云はないから」と云ふ、どう見ても古株だ、どうして人の排泄する樣な下等社會の荒波を渡つて來た舟乘と思はれる言葉使だ、自分は「何といつて取り止めもない事だが人間の言葉を覺ねたので非常に嬉しくて此喜びを何處へ分けてやらうかと思つてゐる所です」といふと老人は「あふ人の言葉を覺ねるのは實際愉快だ私も若い時は物覺がよくてウンと覺ねたものだ袖振り合ふも他生の緣といふから暇にまかせてチト話さうか」と老人は額の平行せる幾條かの皺を太くしたり細くしたりして次の樣な事を說き出した。(未完)

雜報

山林學校便り

○發火演習、十一月廿四日秋晴に乘じ發火演習を宮越附近に行ひ申候本年は演習地に平地を選び候と好日和なりしとにて戰士の活動も花々しく木曾河右岸の崖上よりする觀戰は誠に妙に有之候ひき

○神學士の講演、先年も來校講演せし加奈陀人神學士ハミルトン氏は傳道の爲來福せるを機とし十一月廿九日復本校に來り加奈陀に於ける數十年前の森林の狀態、夫より直木は强く曲木は弱してふ譬喩を引きて修養談を試みられ候云ふ所は平凡に候へ共何となく清教徒の遺風を偲ばしむるもの有之候

○教授囑託、助手任命、十一月三十日左の通り任命有之候

木曾山林學校書記心得 矢幡三十郎

兼木曾山林學校教授囑託ヲ命ズ 武居喜太郎

木曾山林學校助手ヲ命ズ

矢幡書記は三年生に對し課外又は補缺として執務上の實地事項を教授する筈に候

○奉送迎、久邇宮第十五師團長閣下には飯田聯隊區御視察の往還、木曾福島驛御通過に付十二月二日、及五日の午後二時職員生徒一同、停車場に奉送迎申上げ候

○書道講演、十二月六日午後二時より東京書道奬勵會立花正夫氏を聘し書道の講話を聞き候氏は先づ柳公權の書表心書者也の語を引きて書道と道德とは密接なる關係あるを力說し次に撥鐙法、四如等を說明し最後に執筆して實地を示され申候

弓術大會の記

野本生

大會當日の十一月十日は矢場は淸掃され庭球部との境及弓引場には紅白の段々幕を打ち張り今日を晴れと勇士の面々が居ならぶ午前九時開始にて我こそ今日の月桂冠を戴かんものと入り代り立ち代り場に上つた、滿月の如くキリ〳〵と引き絞つて兵と放つ矢は續々とつゞく、そして破るゝが如き響がして喝采の起るのは的に命中したのだ、今當日の成績を揭げると次の如くである

八十点 飯島先生 五十点 內藤先生
三十点 校長先生 二十五点 島內先生
六十点 山本君 五十五点 月田君
五十点 青木忠君 五十点 下平君
五十点 仲谷君 四十五点 井上新君
三十点 古根君 二十五点 小林武君
二十点 藤澤君 二十点 井原君
二十点 木下武君 二十点 唐澤君
二十点 丸山君 二十点 長田君
十点 米山君 十点 內山君

金的命中の名譽は流石に顧問の島內先生に落ちた、此外に林檎や、蜜柑を的にした餘興もあり午後には內藤先生の弓術に關する講話もあつて中々盛に愉快であつた

庭球大會の記

大木生

凋落の秋は十重二十重、山又山谷又谷の木

會路に溢れて高く澄むコバルトの空は秋の充實を示し勇躍的モーションの顯現を吾等に要求した

十一月十日、嘗ては炎暑やくが如き日光を浴びて獰猛に練習を重ねた部員は今日こそ日頃の妙技を發揮すべく早朝より出動して準備に奔走した、空は薄曇り風は少し寒いが何條事かあると勇士の意氣大に揚る、午前八時一同校庭に集合、飯島顧問先生より一二の注意があつて競技に移つた、當日は校長先生始め諸先生も參加せられたので凋落の秋とは云へ此處抗ノ原のグラウンドは拍手喝采の聲が鳴り響いて陽氣の氣象が充ち渡つた。

左に本日のゲームを記さん。

第一回戰○ハ勝、×ハ負

○○(箕部君) ××(星君)
×(野本君) ○(水野(鎌)君)
○(內田君) ×(木村君)
○(横井君) ×(古根君)
○(山本君) ×(八木君)
○(長田君) ×(向井君)
○(瀧澤君) ×(星加(正)君)
○(下平君) ×(唐澤(繁)君)
○○(小林(愛)君) ××(米倉君)
×(早川君) ○(廣瀨君)
○○(北川君) ××(原川君)
×(今井(徹)君) ○(伊東(厚)君)
○○(立道君) ×(深澤君)
○(水口君) ×(鈴木君)
○○(校長先生) ××(北村先生)
×(宮川先生) ○(飯島先生)
○○(島內先生) ××(新家先生)
×(沼田書記) ○(小貫先生)
○○(今井(忠)君) ××(家高君)
×(井上君) ○(福川君)
○(高橋君) ○(丸山君)
○(千田君) ○(中村君)
○(小野澤君) ×(原(正)君)
○(長崎君) ×(三村君)
○(井原君) ×(米久保君)
○(大木君) ×(篠原君)
○(岡庭君) ×(坂卷君)
○(佐藤君) ×(宮下君)

第一回戰の優勝組を以て。第二回戰を行ふ

○(長田君) ○(立道君)
○(山本君) ○(水口君)
×(小野澤君) ×(長田君)
○(長崎君) ○(山本君)
○(高橋君) ×(北川君)
○(千田君) ×(今井(徹)君)
×(立道君) ○(今井(忠)君)
×(水口君) ○(井上(寛)君)

優勝者、高橋君、千田君、立道君、水口君

○競技を終りて校長先生より賞品の授與あり散會せしは黃昏の頃なりき。

會員消息

○梅村計介君、熊本大林區署に在勤中の處徵兵檢査に合格、松江步兵第六十三聯隊第三大隊第九中隊に入營せられたり

○中俣伍市君、上水內郡技手に轉任せらる

○中畑佐耕君、豐橋步兵第六十聯隊第二中隊に入營

○原正造君、豐橋步兵第六十聯隊に入營

○小松精內君、今般石川縣鳳至郡技手として赴任せらる

○下平佐門君、十一月現役滿了の處、終末試驗に合格第一次勤務演習服務の爲、豐橋聯隊に在隊の筈

○柳澤得衛君、今回甲種勤務第一次演習を終へ曹長に任ぜられ士官適任証を附與され歸鄉せられたり

○加藤源二郎君、終末試驗に及第し引續き在隊第一次勤務演習に服務の由

第二回戰の優勝組を以て第三回戰(三組拔)を行ふ。

○千村彌之助君、除隊歸鄉
○喜多村明君、同 上
○小田寶君、富山歩兵第六十九聯隊第二中隊に入營
○原治二君 小千谷工兵第十三大隊第一中隊に入營
○向井惟晨君、近衛歩兵第二聯隊第十中隊に入營

高樋君弔慰金領收報告(第五回)

金貳圓(現)　福田友次郎君
累計五拾圓五拾錢
林友代領收報告　吉川光夫君
金五拾錢

卒業生名簿

第一回 (二十六名)

東京府勸業課　遠藤宗作
長野小林區署　齋藤正雄
朝鮮海州北旭町三七六　岡戸廣治
長野縣飯山小林區署　高橋作治
愛媛縣宇摩郡住友別子鑛業所五良津派出所　小瀧升太郎
新潟縣村上小林區署　中村豐治
福島縣相馬郡石神村官行斫伐所　原田義治
西筑摩郡田立村　林哲次
鳥取縣日野郡役所　坪倉藤三郎
長野縣上田小林區署　森正次
青森縣下北郡大港村　祐川昌平
沖縄縣國頭郡國頭村
第二區縣有林事務所　園原咲也
鳥取縣日野郡山上村　吉戸爲[illegible]郎
朝鮮全羅南道木浦林業事務所　原四郎
上高井郡保科村　岡田恒治
奈良井帝林局出張所　大森久治
福井縣遠敷郡役所　福田友次郎
鳥取縣廳　伊東兵太
西筑摩郡讀書村　福井利吉
山形縣林務課　兒野榮
小縣郡青木村役場　征矢野克己
東京府高田村大原一ノ六〇四　輪湖正由
石川縣鳳至郡役所　小松精內
Navy Hotel No.5—16B17 Beach Road Sinyapori　松原三郎
宮崎縣西諸郡加久藤小林區署　古根是
長野縣福島町　原庄次郎

第二回 (二十七名)

福島縣石城郡日立鑛山事務所　川岸滋次郎
東京大林區署　鷲澤忠治
鳥取縣西伯郡役所　武久貞一
新潟縣勸業課　宇佐美周業
石川縣珠洲郡若山村　尾重清
三重縣廳　木村鐵次郎
靜岡縣周智郡帝林局　篠原忠治
氣多出張所　南村末吉
愛媛縣新居郡住友別子鑛業所大永派出所　林與五郎
朝鮮咸鏡南道三水郡營林廠新加場鎮出張所　青森縣野邊地小林區署
鳥取縣廳　福島町
島根縣能美郡役所　鵜飼政義
東筑摩郡片丘村　中島源一郎
岐阜縣廳第六課　椿本貢
南安曇郡烏川村　黑岩正平
岐阜縣惠那郡坂本村　岩久宗治
愛媛縣新居郡住友別子鑛業所山林課　乙谷耕吉
臺灣臺北下崁社頂石路四七　大脇文衛
新潟縣廳　遠藤治一郎
愛媛縣廳　倉澤眞
茨城縣日立鑛山事務所　下條初太郎
南安曇郡島々町　加藤純一
靜岡縣安倍郡役所　畑卓二
朝鮮平安北道江界郡高山鎮營林廠出張所　柳澤邦信
西筑摩郡吾妻村　松井定道
西筑摩郡駒ヶ根村　中澤龜吉
東筑摩郡片丘村　原傳
大熊俊彥

第三回 (二十五名)

嶽野利雄
飯田帝林局出張所　岡田彌兵衛
湯舟澤帝林局出張所　山下常記
熊本縣球磨郡多良木小林區署　柳澤熊治
Toko'apau' Rotafaroe, Borneo　鵜殿正雄
小縣郡長瀨村　宮下信一
福島町　篠原帝林局出張所山下藤一
熊本縣人吉小林區一勝地製材所　野知里慶助
藪原帝林局出張所　代田善次郎
西筑摩郡吾妻村　小林桂一郎
林與五郎　杉本純平
青森縣野邊地小林區署　三宅寶洲
福島町　辻敬二
石川縣廳　但馬廣造
諏訪郡役所

石川縣河北郡金津谷村　宮崎清一郎
石川縣羽咋郡北邑知村　小藤作四郎
鳥取縣八頭郡若櫻町官行斫伐所古畑　金藏
東京麹町區帝室林野管理局　前野慶一
野尻帝林局出張所　千村重喜
西筑摩郡日義村　狩戸深一
西筑摩郡木租村　寺島正治
石川縣珠洲郡役所　宮森太一郎
朝鮮平安北道寧邊郡廳　宮田實
岡山縣眞庭郡富原村　戸田績
石川縣羽咋郡河合村　木下安太郎

第四回 (二十五名)

1111 Jesler way Seattle, Wash. U.S.A.　西野入德
福島町　川崎本雄
野尻帝林局出張所　宮崎仁郎
青森市鐵道保線事務所　廣瀨靜之進
福島町　吉田精一郎
西筑摩郡木租村　澤田貞次郎
埼玉縣勸業課　矢島駒二
北安曇郡常盤村　太田喜代松
群馬縣沼田小林區署　和田宗吉
宮越帝林局分擔區　由尾忠輔
帝林局妻籠出張所　大島角藏
盛岡小林區署　松館藤太郎
下伊那郡會地村　肥後金四郎
帝林局三殿出張所　市川潔
福島町　水野忠一
愛知縣東加茂郡旭村　永井順
青森縣東津輕郡奥內村小林區署竹內房太郎
福島町　新井喜多雄
福島縣安積郡郡山小林區署　上條嘉一郎
福島町　木村音太郎
帝林局瀨戸川伐木所　松島九平
上水內郡三水村　中島昌利
福島町　肥田幸一郎
福島町　小林恭市
小縣郡寶賀村　平田稻雄

第五回 (二十四名)

石川縣能美郡役所　宮城忠藏
靜岡縣山林課　瀨在實
長野市田町　仲俣吾市
岐阜縣高山小林區署　松澤萬吉
上水內郡三輪村　北澤時三郎
長野小林區署戸隱保護區　金井澄水
岐阜縣岩村分擔區　上田銘二
帝林局野尻出張所　小池新伍
上高井郡山田村　水橋要作
新潟縣廳　宮崎惠喜太
朝鮮總督府山林課　樋口勇
更級郡信里村　小山田喜十郎
帝林局瀨戸川伐木所　北川信美
兵庫縣生野町三菱合資會社　藤巻壽一
秋田縣北秋田郡　高野金作
土小阿仁小林區署　橫山治人
靜岡縣廳　寺島俊一
西筑摩郡木租村　奥原吉右衛門
帝林局王瀧出張所　林省三
岩村田小林區署　竹內茂
埴科郡森村　岐阜縣加茂郡七宗帝林局出張所千村善三
西筑摩郡役所　脇田義正
帝林局福島出張所　久保田傳一郎
北佐久郡中佐都村　池田藤三郎

第六回 (二十五名)

西筑摩郡三岳村　中島要人
鳥取縣廳　松澤莊太郎
上高井郡役所　仲田惠令
東筑摩郡役所　倉科浦一郎
帝林局藪原出張所　宮川永三
岐阜縣下呂帝林局出張所　中田辰雄
西筑摩郡新開村　向井辰次郎
朝鮮總督府山林課　本田清右衛門
福島市小林區署　原雛助
茨城縣日立鑛山事務所　原七郎
朝鮮江原道洪川郡廳　南勝右衛門
帝林局奈良井出張所　芦澤庸三
茨城縣日立鑛山事務所　山村次一
小縣郡長村　一之瀨袈裟壽
秋田縣阿仁鑛山事務所　田中吟重
西筑摩郡駒ヶ根村　蜂須賀宮次郎
群馬縣廳　野村光智
西筑摩郡大桑村　洞山鹿之助
秋田縣山本郡太良鑛山　島田雄太郎
古河家林業部　原喜四三
下伊那郡役所　鹽澤英一
青森縣喜良市小林區署　宮入汎省
埴科郡五加村　若林遊龜尾
小縣郡役所　岡戸郁二
朝鮮平安北道新義州營林廠自修舍

山梨縣北巨摩郡新富村
第七回（二十四名）
岐阜縣廳
靜岡縣金谷町帝林局分擔區
岐阜縣小坂帝林局出張所
北海道廳林務課
帝林局野尻出張所
帝林局王瀧出張所
山梨縣鰍澤管理課出張所
帝林局野尻出張所
帝林局福島出張所
帝林局妻籠出張所
熊本縣菊池小林區署
岐阜縣惠那郡福岡村
飯山警察署
靜岡縣盤田郡豊田村西川分擔區
岐阜縣廳
山梨縣韮崎管理課出張所
長野縣廳
岐阜縣惠那郡役所
福島町
帝林局野尻出張所
福島町
諏訪郡富士見村森林測候所
茨城縣高萩小林區署
第八回（二十七名）
神奈川縣足柄上郡農學校
東筑摩郡役所
福島縣猪苗代町川上保護區
松本市小林區署
帝林局野尻出張所
下伊那郡飯田町
小縣郡丸子町
帝林局上松出張所
福島町
更級郡豊崎村
岩手縣岩手郡淺岸村
西筑摩郡三岳村
北安曇郡役所
宮城縣宮城郡廣瀬村保護區
帝林局王瀧出張所
青森縣增川小林區署
熊本縣八代郡鏡町
東筑摩郡宇賀村
上水内郡柳原村
帝林局妻籠出張所
南佐久郡役所
北佐久郡小諸町
岐阜縣廳
埼玉縣北足立郡大和田町平林寺
山形縣新庄小林區署
西筑摩郡大桑村
北佐久郡岩村田町
第九回（二十四人）
栃木縣林務課
東京麹町帝室林野管理局林務課
茨城縣日立鑛山事務所
横濱市大日本水道木管株式會社
北佐久郡岩村田町
福島縣石城郡平町小林區署
岐阜縣小坂町帝林局出張所
帝林局王瀧出張所
埴科郡豊榮村
臺灣臺中藍傑興頭泙沆
大寶農林部
帝林局湯舟澤出張所
盛岡高等農林學校
帝林局三殿出張所
山梨縣鰍澤恩賜管理課出張所
西筑摩郡新開村
西筑摩郡開田村
松本小林區署
茨城縣大子町小林區署
帝林局小川伐木所
小諸町純水館
東京中澁谷八八、有馬館
岐阜縣郡上郡奥明方村
國田甚三郎
北海道天塩中川帝林出張所
岐阜縣古川町四二八
西筑摩郡上松
岐阜縣付知帝林局出張所
北安曇郡役所
上諏訪町役場
群馬縣中之條小林區署
南滿州熊岳城產業試驗場
岐阜縣吉城郡上寶村
長倉保護區
小縣郡長瀨村
北海道旭川神樂町
栃木縣廳
青森縣上內眞小林區署
福島町
東京神田三崎町三ノ一重井方
臺灣臺中藍興堡頭泙沆
大寶農林部
群馬縣大間々小林區署
秋田縣河合町古川家林業部
京都市外北園妙心寺
倉澤 健雄
吉村 金次郎
宮崎 光治
小池 一郎
西尾 長一
篠原 昇士
菊地 貞次
塚本 三樹
丸山 金三郎
木村 康明
市川 左金吾
宮澤 嘉一
岡西 謙三
柏澤 國治
盛川 金次
加藤 正次
小林 智久
曲田 哲三
土屋 秀二
吉田佐十郎
征矢野余所夫
小羽根安治
角田 久福
吉澤 英雄
石曾根四郎
川合 清行
村松 一清
征矢 朴郎
杉本 直
山村 克人
小林 秀一
山梨縣廳管理課甲府出張所
山梨縣身延山恩賜管理課出張所
帝林局藪原出張所
愛媛縣宇摩郡役所
下高井郡穗波村
帝林局上松出張所
松本小林區署
山梨縣北都留郡役所
鳥取縣東伯郡山守村小林區署
樺太大泊製紙株式會社
宮城縣本吉郡鹿折村保護區
第十回（三十名）
飯山小林區署
西筑摩郡新開村
東京府青梅農林學校
西筑摩郡新開村
愛媛縣周桑郡楠河村小林區署
伊豫國宇摩郡國川村
住友山林課
福島縣浪江小林區署
新潟縣中頸城郡關山小林區署
帝林局玉瀧出張所
鹿兒島高等農林學校
東筑摩郡島內村
茨城縣日立鑛山事務所
福島町
福島縣原町小林區署
石川縣羽咋郡志雄村
西筑摩郡三岳村
千葉縣天津村
南安曇郡烏川村
小縣郡依田村
上高井郡川田村
山梨縣廳恩賜管理課
特別經營係
長谷部眞一
田中 榮一
久保田吾良
古畑 七三
成瀨 義郎
坂田勘太郎
市川 豐二
關谷 靜夫
樋口 德一
家高 甚一
大久保五成
細江七兵衛
原 貴一
小谷 益實
岡山 益善
大洞 盛一
神作 四郎
唐澤 清見
吉池三九郎
中島 信敏
上田彌太郎
多田慶次郎
西尾 嘉一
丸山 久雄
佐藤 一郎
山本政之亟
高野 薫見
安藤 次郎
前田 正義
伊藤 昇次
篠原 爲一
伊藤德之亟

朝鮮平安北道博川郡廳
埴科郡松代町
奈良縣宇陀郡松山森林測候所
山梨縣廳恩賜管理課
福島町
石川縣石川郡役所
福島縣南會津郡山口小林區署
青森縣上北郡横濱村小林區署
東京目黑林業試驗所
第十一回（二十名）
北安曇郡中土村
越後村松小林區署
茨城縣日立鑛山萬城內合宿所
山形縣新庄小林區署
盛岡高等農林學校
石狩國上川村美瑛分擔區
靜岡縣河津帝林局出張所
岐阜縣付知帝林局出張所
神奈川大磯帝林局出張所
山形縣小國小林區署
第四沼澤保護區
茨城縣高萩小林區署
長野小林區署
朝鮮江原道葉川郡廳
青森縣北津輕郡中里村
福島市小林區署
埴科郡清野村
山梨縣恩賜管理課
愛知縣寶飯郡八幡村
栃木縣今市小林區署
石川縣羽咋郡西增穗村
第十二回（四十四名）
愛知縣丹羽郡岩倉町
北海道空知郡山部村
東大演習林
白井 辰雄
野中 高就
松島 周一
小林 政基
喜多村 明
代田文之助
下枝 壽一
日野 清亮
羽田 龍尾
齋藤 海藏
二木 季人
塚田 大
原 潔
千村 吉雄
赤羽 高
市岡 新八
石坂 季治
梅田 吉郎
中垣 英一
今井 安男
關 琴義
新田 穰
山崎 三男
柳澤 義雄
久保 照人
佐藤 光造
岩瀨 幸吉
長谷川房藏
深見 利一
伊藤正之助
池田 仲治
朝鮮新義州營林廠
群馬縣高崎小林區署
長野縣廳林務課
岐阜縣小坂帝林出張所
山梨縣鰍澤恩賜管理課出張所
西筑摩郡新開村
西筑摩郡開田村
松本小林區署
茨城縣大子町小林區署
帝林局小川伐木所
小諸町純水館
東京中澁谷八八、有馬館
岐阜縣郡上郡奥明方村
國田甚三郎
北海道天塩中川帝林出張所
岐阜縣古川町四二八
西筑摩郡上松
岐阜縣付知帝林局出張所
北安曇郡役所
上諏訪町役場
群馬縣中之條小林區署
南滿州熊岳城產業試驗場
岐阜縣吉城郡上寶村
長倉保護區
小縣郡長瀨村
北海道旭川神樂町
栃木縣廳
青森縣上內眞小林區署
福島町
東京神田三崎町三ノ一重井方
臺灣臺中藍興堡頭泙沆
大寶農林部
群馬縣大間々小林區署
秋田縣河合町古川家林業部
京都市外北園妙心寺
飯沼 要人
稻葉 增吉
今井 眞二
林 勘次
早川 一雄
三尾 貫三
千村 萬三
等々力官一
荻原 惠治
加藤朝太郎
唐澤 俊文
吉川 眞夫
高知縣安蘇郡東川村島保護區
千葉縣久留里小林區署
岐阜縣小坂帝林出張所
青森縣西津輕郡深浦小林區署
埼玉縣兒玉郡長幡村
新潟縣小出町小林區
第二號保護區
香川縣綾歌郡美谷村
中通保護區
長野縣廳林務課
靜岡縣周智郡氣多村
氣田王子製紙會社分社
第十三回（四十六名）
岐阜縣古川町
西筑摩郡王瀧村木賊
豐橋步兵第六十聯隊
第十二中隊
豐橋步兵第六十聯隊
古澤 久治
愛知縣南設樂郡新城
帝林局出張所
福島町
山梨縣谷村町恩賜管理課出張所
西筑摩郡開田村
三重縣龜山小林區署
鳥取小林區署
南佐久郡北牧村役場
群馬縣多野郡上野村槍原保護區
高知縣馬路小林區署
南佐久郡臼田小林區署
福島縣喜多方小林區署
上水內郡柏原局區內
黑姬巢鷹山事業所
下伊那郡伊賀良村
熊本大林區署
北海道膽振苫小牧
帝林局出張所
小崎 次郎
小林英一郎
近藤 幸吉
安藤 晃
新井 彌藏
宮澤 功
水上 壯三
伊藤 喜代
中田 穰
加茂憲太郎
川口勇二郎
下平 佐門
原 正造
竹村 節三
千村彌之助
武六
秋藏
富可
田澤
澤田
森 次 潔
熊谷 清逸
政美
正一
有賀
中川 源太
平田 美則
丸山嘉一郎
久保田邦治
利一
奥村
長谷部久雄

大連市縣通二三號地平林方
岐阜縣小坂帝林局出張所
北海道夕張帝林局出張所
豐橋歩兵第六十聯隊第二中隊
西筑摩郡駒ヶ根村
樺太廳林務課
大阪大林區署
岐阜歩兵第六十八聯隊
第七中隊
金澤市大手町
臺灣南投廳沙連保林圯捕街外
三菱竹林事務所
松江歩兵第六十三聯隊
第三大隊第九中隊第一班
朝鮮總督府營林廠
千葉縣久留里小林區署
山梨縣恩賜管理課
福島縣棚倉小林區署
南佐久郡臼田小林區署
山形縣新庄小林區署
栃木縣太田原小林區署
仙臺市小林區署
南佐久郡臼田森林測候所
西筑摩郡小川所木所中立事業所小松
樺太大泊王子製紙株式會社
松本市小林區署
福岡縣嘉穗郡稻築村
下伊那郡和田村

第十四回
但馬國生野鑛山事務所
西筑摩郡奈良井
茨城縣日立鑛山芝內農場
富山歩兵第六十九聯隊
第二中隊四
福島町
秋田縣花輪小林區署
大分縣日田小林區署

等々力與八
喜多村弘
柘植五郎
中畑佐耕
村上安太郎
今井欽
宮川昌平
加藤源一郎
開運隆飛登
今井武雄
梅村計介
坂本光太郎
佐々木久一
宮下孝美
岡西猛
樋口勵
市岡正茂
小原靜雄
山崎兵平
大澤國男
小池茂樹
良輔
森下興一
野本義郎
平田實
福澤定雄
鳥澤義男
岩田元吉
長坂清人
宮島岩見
小田寶
長谷川毅
小岩井茂樹
松島

東京丸內大林區署林務課
山形縣北日町三島通千束館
北海道夕張郡登川村
炭坑汽船會社下宿
千葉縣印旛郡富里村
吉川家林業事務所
青森縣喜良市小林區署
高知市中島町上一丁目
山口縣玖珂郡廣瀨村
吉川家林業事務所
木曾支局
青森縣下北郡川內村
阿部城鑛山林務課
福島縣安達郡高川村
片倉組林業事務所
下伊那郡平岡村熊伏製材所
長野小林區署
北海道夕張郡登川村
炭坑汽船會社下宿
高知大林區署施業按掛
鳥取市小林區署
下伊那郡伊賀良村
青森縣喜良市小林區署
小千谷工兵第十三大隊
第一中隊
近衛歩兵第一聯隊第十中隊
西筑摩郡役所
樺太東海岸泊串大寶商店
福島縣若松小林區署
滋賀縣廳林務課
北海道小樽三井物產會社
東京府赤羽工兵大隊
第二中隊第五班
山梨縣西八代郡上野村
西筑摩郡大桑村
西筑摩郡木租村
長野縣林務課
下伊那郡喬木村
木曾山林學校

白木老雄
安江悅次郎
各務傳六
藏田毅郎
富士川鏡一
榊原武重
藏尾眞
吉川光夫
村上英勇
赤羽三郎
伊深幾太郎
藤原幾喜
高峰傳治
奧村和吉
曾我義郎
平田久良治
山下不二三
原治二
向井惟晨
鈴木繁
出雲秀一
伊藤善藏
上條芳郎
武居章
皆川秀雄
丹澤潔
前野今朝次郎
古畑今朝茂
新井清美
下平道雄
武居喜太郎

附記 右の中現在所不明の向は原籍を記入せしもの三三有之候、尙、右の中（誤謬御發見の方は乍御手數御一報煩度願上候

◆祝開業四十周年紀念出版
赤星長野縣知事題字
本多林學博士序文
丸山梓水著
島崎藤村先生序文
曾木 特價五拾錢
原色寫眞版頗る美麗好評嘖々
紅葉の木曾 金拾五錢
▲繪はがき六枚一組▼
長野縣木曾福島町
藤森書店
振替東京八一七七番
電話三十九番

活版石版印刷
川崎印刷所
長野縣木曾福島町
電話（二十二番）

諸官衙御用達
長野縣木曾福島町
蘆澤書店
電話（四〇番）

木曾のなかのりさん
（特價金貳拾錢）

大正六年十二月廿五日印刷 大正六年十二月廿五日發行
長野縣西筑摩郡福島町四〇四番地 安井正一
長野縣西筑摩郡福島町五七〇番地 藤森書店
長野縣西筑摩郡福島町五七〇番地 川崎印刷所